この時代に生きた

長野県・南信州

人の心温かく、瞳輝く時

感動体験南信州

南信州は中央・南両アルプスの間に天竜川が流れる巨大な谷であります。気候は信州地方では最も温暖であり、そこに住む人々の気質は大変穏やかなことが特徴です。

当地域では飯田市が1996年から体験教育旅行の受け入れに取り組み、2001年に地元自治体と企業、団体の出資により当社が設立されました。体験プログラムは自然、環境、農業、味覚、伝統工芸、アウトドアスポーツなどさまざまな分野があり、種目数は180種目を数えております。

民泊をはじめとして数多くのほんもの体験を提供

われわれの基本的な理念は、地域に暮らす人々の生業やありのままの暮らしのなかに直接飛び込んで、援助や指導を受けながら利用者と受入者が体験を共にし、その体験交流を通して互いに感動し、高まり、そして人間関係の構築の好機となるものが本物の体験であるということです。

中でも農家民泊は98年に全国に先駆けて飯田市で受け入れを行って以来、南信州14市町村で約400軒の農家の協力を得て毎年8千人前後の学生の受け入れを行っていますが、「長く続けていても農家の人々が変わらず素朴で温かく受け入れている」といった評価をいただいております。一般家庭に入るわけですのでさまざまな制約はありますが、現在の若者たちに不足しがちな人間関係構築能力を高めるには絶好のプログラムです。

また、天竜川でのラフティングは国内最大級の一回に300人の実施が可能であり、14年にオープンしたフォレストアドベンチャー松川や、乗馬、渓流釣り、マウンテンバイクなどの本格的なアウトドアスポーツ体験や、プロの職人に教わる陶芸や草木染めといった工芸体験、地域の食文化に触れるそば打ちや五平餅作りなど、民泊以外にも数多くの体験プログラムを行うことができます。

加えて13年には「満蒙開拓平和記念館」も開館され、語り部講話と展示見学による平和学習も行えるようになりました。温泉旅館も数多くありますが、「大平宿」では空民家で囲炉裏と竈を使った昔ながらの生活を体験できる、さまざまな形態での教育旅行の受け入れが可能です。

教育旅行の受け入れにあたって

現在この事業に協力いただいている方々は全体で1千人を超えておりますが、いつも新鮮な気持ちで訪れる人々を迎えております。そして、安全にも気を付けながら、しっかりと体験をし、健全な交流ができること、教育旅行を受け入れるということは場所を変えて登校することにも等しいということを改めて確認し、安心して当地にお越しいただけるようさらなる体制強化に励んでおります。

家族の一員になる民泊、最初の対面

天竜川でのラフティング川下り

大平宿で昔ながらの生活を体験

株式会社南信州観光公社
〒395-0512長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内
TEL0265-28-1747 FAX0265-28-1748
URL http://www.mstb.jp

新潟県・上越市・十日町市

人との交流で生まれる「心に残る感動」を

越後田舎体験でお待ちしています

越後田舎体験事業で子どもたちを受け入れ始めて17年が過ぎました。この17年の間にはさまざまなドラマがありました。初めて学校を受け入れたときは、体験も無事に終わり、お別れ会の時に不安と緊張が解け、思わず流れた涙が物語っていました。受け入れた子どもたちとの手紙のやり取りやお互いに訪問するなどの交流も続いています。「私たちも来てくれた学校へ行ってみよう」と学校訪問した地域の人たちもいます。受け入れ時に大雨が降って大変な思いをした学校と受け入れ民家もありました。

これまでに延べ700団体、7万3千人が上越市と十日町市においでいただいています。ほんの2泊か3泊の滞在ではありますが、田舎やその暮らし、人の温かさを感じていただけたと思っています。

越後田舎体験では、地域の暮らしや体験、人と受け入れにご協力いただく多くのお年寄りですが、越後田舎体験で来ていただく子どもたちから元気をいただき、300軒以上の民家が「何かを伝えたい」と考え、受け入れしています。

民泊・ホームステイ

私たちの地域では民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。民家の人と過ごして体験、交流することで何か感じるものがあるようです。

信濃川のラフティング

2年前から、日本一の信濃川「信濃川」でのラフティングが体験できるようになりました。激流がないので初心者向けで、周りの自然環境を観察しながら、安心安全に体験していただくことができます。

地元の人との交流

体験を通して、地元の人との交流にもお応えしています。昔の遊びを通じて地元の高齢者との交流、地域探検で各家を訪問して農村の暮らしを学ぶ、地域の方と祭りの準備やボランティア活動なども行っています。

雪国体験

とにかく雪はたくさん降ります。3～4㍍の積雪のある地域での雪国体験です。雪をエネルギーとして利用する施設の見学も可能で、自然エネルギーの活用も学ぶことができます。

新潟・越後にぜひ、一度お越しください。ご案内いたします。

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。

②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。

③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。

④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

米どころ越後の田んぼで黄金色に実った稲刈り体験

わらぞうりづくり

幻想的な灯の回廊

信濃川のラフティング

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください
〒942-0411 新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988 FAX 025-592-3324
E-mail taiken@yukidaruma.or.jp
http://www.echigo-inakataiken.jp/

岩手県・三陸海岸

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任」があります

岩手県田野畑村は、三陸復興国立公園の北部に位置し、「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に住民が漁業や酪農を営む人口4千人弱の典型的な農山漁村です。

平成23年3月11日に村を襲った大津波は、住み慣れた家、船や漁港施設のみならず尊い人命をも奪い去りました。しかしこの地には、明治や昭和の大津波が教訓として地域の人々の中で語り継がれており、日常の防災教育や避難訓練により人的な被害を最少限に止めたことも事実でした。

悲惨な現実やその後の不自由な生活を乗り越えて、生業の再興や復興へと歩むたくましい住民の姿は、訪れる生徒たちの目にどのように焼き付き、感性や心情に響いていくのでしょうか。個人として「生きる力」を身につけ、他の人や社会と「心の絆」でつながることの大切さについて考え、大自然や農山漁村の真の豊かさを五感で感じることができる「学びの場所」がここにあります。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」がコーディネート組織として問い合わせや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の皆さまの目的や要望に対し迅速かつ柔軟に対応しています。

各プログラムの指導者や民泊家庭は、定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁等との連携訓練を実施するなど安全確保に努めています。

民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

宿泊ホテルが復旧再開

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は被災後にリニューアルオープン。津波への新たな安全対策を講じるとともに、セレモニーや各種プログラムなど多目的な活用が可能な屋内交流センターもホテルに隣接して整備されました。宿を出ると直ぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、滞在中に効率的なプログラムを組むことができます。

■お奨めプログラム

サッパ船アドベンチャーズ

津波被災から即座に再開し、今や地域観光の復興の大きな牽引力として注目されます。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

漁師の番屋が復元

漁業体験施設「机浜番屋群」が復元され、季節の生業や作業体験、漁師料理体験、塩づくり体験など、地元漁師やおかあちゃんインストラクターが各種体験メニューを提供しています。

大津波体験語り部、震災遺構

大震災で被災した住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。津波のエネルギーや被害の悲惨さをビジュアルで伝承するため、被災した防潮堤の「震災遺構」保存工事が進められています。

人気のサッパ船による漁業体験の現場

復元された体験施設「机浜番屋群」

復旧再開したホテル羅賀荘

語り継ぐ責任を持って臨む「震災復興ガイド＆語り部」ガイド

体験村・たのはた教育旅行受入協議会
NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井
〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机142-3
机浜番屋群内
TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL:http://www.tanohata-taiken.jp/

岩手県・久慈市

山・里・海でこころの体験

久慈市は北上山系の北東部に位置し、三陸復興国立公園と久慈平庭県立自然公園に囲まれた、海の幸、山の幸に恵まれた風光明媚な地域。広大な海と自然豊かな山々、日本短角牛、豊かな伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山・里・海の全ての体験を堪能できます。

2005年度から受け入れを始めた久慈市では、豊かな体験フィールドと人情味のある地元インストラクターのもとで、安心して心を開くことができる体験環境を作っており、仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合うことを目指しています。日々の受け入れの中で、生徒の皆さんたちから私たちが学ぶことも多くあり、私たちにとっては何でもない日常の体験で感動してくれる姿から活力をいただいています。

山では、学校に森を丸ごと貸しています。「学校の森」と設定し、自由な発想で、学校独自の森を創ります。森を創り、学び、守り、遊び、授かり、実に多くのことを森は気づかせてくれます。現在、3校の中学校にご利用いただいております。

里では、日本唯一の琥珀博物館で、琥珀の採掘体験ができます。恐竜の化石が発見されたことも ある8500万年前の地層から、自分自身の手で琥珀を採掘し、お土産として持ち帰ることができる貴重な体験です。

海では、乗ることのできない地元漁師の小型漁船「サッパ船」に乗り、刺し網漁やカゴ漁など、ほんものの漁業を体験します。

そして何より人気のプログラムが「農林漁家民泊」です。農家、漁家の一般家庭に民泊し、地元の人々と触れ合います。都会の喧騒から離れ、川や波の音に癒され、満天の星空を見て驚き、民泊家庭のお父さん・お母さんの優しさに触れているうちに、生徒の表情が変わっていくのがよく分かります。食わず嫌いの生徒が、民泊を機に食べられるようになったり、学校に戻ってからも、民泊家庭の人々と連絡を取って交流したり…。普段の生活では決してできない体験が、久慈市の民泊で味わうことができます。山での民泊は50軒300人、海での民泊は20軒1000人の受け入れが可能です。

大事な生徒を預かるために、久慈市の体験インストラクターは安全研修を受け、日々のリスクマネジメントには細心の注意を払っています。さまざまなご要望に対応したいと思っています。

心の通う民泊で地元の人々と触れ合う

小型漁船「サッパ船」

漁港で漁具の手入れ

森から学ぶ林業体験

琥珀の採掘体験

渓流でシャワークライミング

ふるさと体験学習協会
担当者：事務局長　高橋昭治
営業時間　8：30～17：15（年末年始・祝祭日休み）
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1-1
TEL 0194-75-3005 FAX 0194-75-3007
E-mail:info@kuji-taiken.jp
URL:www.kuji-taiken.jp